

私たちは8月3日・4日に東京研修を行った。この東京研修では、ディレクトフォース、企業大学訪問、現役東大生などのOB・OGとの懇談会、東京大学でのオープンキャンパスなどがあり、非常に学ぶことが多く、私のこの後の人生においてプラスになるものがとても多かったと思う。

一日目の最初のイベントは笹川平和財団での田中伸男さんの講演、ディレクトフォースであった。田中さんは、IEAの前事務局長で、現在は笹川平和財団の理事長をしている、かなり凄い方だった。まず最初にIEAについての説明をしていただいた。IEAという機関があることは知っていたが、石油を備蓄することで、石油危機のようなことが起こったための準備をしていると聞き、私は大変驚いた。世界規模でこのようなことをするのは、とても大変なのであろうと思った。その後、IEAの創設者や、前サウジアラビアの王様、などの著名人と一緒に田中さんがうつった写真を見させていただいた。それらの写真の中で私が驚いたのは、元首相の小泉さんや、安倍首相とのものであった。田中さんいわく、IEAの事務局長の選挙で勝つために彼らと一緒に写真を撮ることは大きな意味があるとおっしゃっていた。

次のスライドでは、私たちが実際に体験した東日本大震災についてのものであった。田中さんは、何故女川原発が津波から助かり、福島第一原発は助からなかったのかという私にとっては興味深いことについて話始めた。田中さんがおっしゃったことをまとめると、女川原発は地震が起きやすいところに近く、予想より10メートル高く津波が来ると想定して建設したため、助かったそうだ。しかし、福島第一原発は女川原発ほど海面から高いところに建設されなかったため、津波の被害を受け、助からなかったそうだ。それに対し、福島第二原発は署長が上手く被害を最小限に収めるよう努めたため、助かったそうだ。田中さんがおっしゃるには、原発は津波のせいで事故が起こったのではなく、単なる準備不足によるものだったそうだ。私は宮城県に女川原発があると知っていたが、それが何故津波の被害を受けず助かったのかわからなかった。というか、何故かなど考えたこともなかった。この話を聞き、私はもっと東日本大震災について興味をもつべきだと改めて感じた。

話は変わって、田中さんが国際機関に興味を持ったきっかけを話し始められた。その大きな要因が、学生時代に参加したAIESEC活動だそうだ。私たちのなかに国際機関で働きたい人のためのアドバイスとして「国家公務員になれば海外へ派遣され、国際機関にすすみやすい。」とおっしゃりました。また、日本のエンジニアたちには、福島の事故で失った日本の技術に対する信頼を、福島の対策をすすめることで、取り戻してほしいと強く言っておられた。将来エンジニアになりたいと考えていた私にとっては、一番印象に残っている一言だった。

とても短い時間の講演だったが、私にとって得るものは大きく、たくさんのことを吸収できたと思った。

次のイベントであったディレクトフォースでは、4人の方々の貴重なお話を聞くことができた。それぞれの方々からのお話をまとめることにしよう。

1クール目の越川さんは、語学を身につけることは大切だとおっしゃっていた。私たちにとって一番身近であるのは英語で、英語力をつけるためには、英字新聞などを日々読むことが大事だそうだ。越川さんは会社の派遣でテヘラン大学へ行き、一からペルシャ語を現地で学んだそうだ。その手助けとなったのが、彼が昔から熱心に勉強していた英語だったそうだ。今はあまり実用性がないと感じている英語も、このグローバルな社会で、将来必ず役に立つであろうと考えると、少しはやる気が出てくるようにも思う。また、ゼロから始めるプロジェクト(一種の難しいパズルのようなものだそうだ)の面白さについても、熱く語っていただいた。

2クール目の土居さんからは、仕事のやりがいについてのお話をいただいた。土居さんはもともと東芝でUSBの開発プロジェクトをしていたそうだが、さらに多くの人々の役

に立ちたいと考えるとともに、パソコンだけの仕事では物足りなく感じ、青年海外協力隊にはいったそう。青年海外協力隊としては、2年間ベトナムで活動をしたとおっしゃっていた。そして、現在は笹川平和財団でアジアにおける少子高齢化のプロジェクトを担当している。今が、一番やりがいを感じているらしく、大臣から難民の人まで多くの人と話し合えることに大きな充実感を感じているそう。具体的に、少子高齢化の対策として、どのようなことをしているのかと質問をすると、国家や地方公共団体に少子高齢化による影響をまとめたものをデータとして提示しているそう。また、一人っ子政策を以前までしていた中国は、少子高齢化のスピードがかなり速いそう。この際に年金をどのくらい、どの年代から受給するか、社会保障制度をどうすべきかなどのアドバイスを直接国家にすることも、プロジェクトの一環として行っているらしい。私も土居さんのように大きな充実感を得ることができる職につけることを心から強く願っている。

3クール目の長崎さんからは、国際化についてお話をいただいた。長崎さんは、東北大学の法学部を卒業されたが、そこで学んだ刑法など法律の知識を直接使う仕事には現在ついていない。長崎さんは、本当にやりたい仕事を見つけたならば、自分の学歴をあまり気にせず突き進むべきだとおっしゃっていた。そのため、将来つきたい職をイメージすることは大事だが、それによって、大学の学部などの進路を自ら狭める必要はないそう。勉強は自分が興味を持っていることをすればいいと、私たちに言ってくれた。また、興味深い話で、インターナショナルとグローバルという、似ている言葉の意味の違いを語ってくれた。インターナショナルというのは、ネーション（国家）という単語が入っていて、国ありきの交流であり、グローバルは一個人での交流だそう。今の社会がグローバルな社会と言われているのは、昔のように国を通さなくとも、個人で外国の国々と交流ができるからなのであろう。

4クール目の和田さんからの話で特に印象に残っていることは、外国で学び得ることができることは、日本でも学べるという内容のことだ。外国へ行けば、現地の文化や言葉の違いを肌で感じるができるかもしれないが、アルバイトや部活でも、同様の体験ができるそう。また、現在行っている広報の仕事で、難しいことは、言葉の選び方や、ネーミングの違いで人に与える印象が“がらっと”変わるため、その点に気をつけているらしい。

この笹川平和財団で過ごした短い時間で私は、世界で活躍している方々（私の中では成功者）のかなりインパクトがある話を聞くことができた。このような機会は今後も滅多にことであろうから、私はここでの時間を絶対に忘れないだろう。

1日目の午後は、自分たちでアポイントメントをとった、アクセルスペースへ行き、ベンチャー企業で働いている方々のフレッシュな話を聞くことができた。また、二高 OB との座談会など盛りだくさんの一日だった。

2日目は9時ごろから、東大へ行き、理学部でニュートリノの講義を受けてきた。かなりレベルが高いもので、全く理解することができなかった。東大や、周辺を散策している間に集合時間になり、赤門へ行き、みんなで東京駅へむかった。これまで順調に進んでいた東大研修だったが、私と他2名が東京駅での集合時間を間違っていたため、他の生徒たちや先生方に大変迷惑をかけてしまった。そんなこんなで、私たちが乗る新幹線を待っていると、いつもなら目にも留めない新幹線の清掃員の姿が映った。この時私は、「あの人たちが、さっきの俺らのように集合時間に遅れたら、今新幹線に乗ろうとしている方々だけではなく、次の駅、次々の駅の乗客に迷惑がかかるのだろうか」とふと思っていた。

いろいろな体験ができた2日間で、私は多くの貴重な体験ができたが、一番基本的なことである、“時間をしっかりと守る”ということが最も重要だと最後の最後に、颯爽と新幹線の中を隅々まできれいにしていたスペシャリストたちに教えていただくことができた。